

公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟 役員選任「立候補意思表明書」
2017年4月6日 安田英二郎

〔JHF活動履歴〕

2000年9月～2002年7月 安全性委員会委員
2001年4月～2002年3月 法務特別委員会委員
2004年9月 個人情報保護法対策委員会委員
2009年6月～ 理事

〔JHF定款への理解〕

ある程度熟知している

〔立候補意思表明〕

現在のJHFの課題はハンググライダーとパラグライダーのフライヤー人口を増やすこと。しかし、これまでの地道な取り組みは効果をあげていません。そこで、まずメディアにおける露出を増やすことを最優先目標としたい。全国の色々なメディアに大会、選手、スクールなどハンググライダー、パラグライダーに関係するものができるだけ紹介されるようにメディアへの売り込みを行うため、JHFにメディア担当者（広報宣伝活動担当者）を置いてメディアに対する広報活動を増やします。これはハングパラ振興委員会がこれまで担当していた業務の一部を抜き出し特化した業務となります。各メディアの記者にスカイスポーツを知ってもらうことから始めることになるでしょう。メディア担当者といっても専従者を雇用する予算はありませんのでこれまでの委員会と同様にボランティアベースにはなってしまいますが、メディアに対する広報だけに集中した活動は成果を期待できると思います。もうこのくらいのことをしないと将来がない気がします。JHFは公益社団法人として高い公平性、中立性を求められていますが、それに反しない限度でできる限りのメディアに対する広報宣伝をしていきたいと考えています。

空を飛ぶことは危険を伴いますが、事故の多い危険なスポーツと思われたら広報も普及も進みません。普及と安全はJHF活動の両輪です。空を飛ぶことは決して危険ではない、きちんとルールを守って飛べば安全なスポーツなのだということを実践する必要があります。フライヤー保険を維持するためにもより一層の安全対策が求められています。安全のための知恵と工夫を集め、実行していきたいと思います。